

会 議 録

1 会議名

令和5年度第2回北諏訪区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

- ・地域活性化の方向性について（公開）

3 開催日時

令和5年9月28日（木）午後6時30分から午後7時00分

4 開催場所

上越市立北諏訪地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 白木朝雄（会長）、高橋和彦（副会長）、大瀧修一、大館崇雄、中野洋子、室岡由美子（欠席者4名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、小川係長、丸山主任

8 発言の内容

【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【白木会長】

- ・挨拶
 - ・会議録の確認：高橋和彦副会長、中野委員に依頼
- 議題【協議事項】地域活性化の方向性について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

- ・資料No.1「北諏訪区における『地域活性化の方向性』(案)」、資料No.2「北諏訪まちづ

くり振興会との意見交換会における主な意見」に基づき説明

本日は、北諏訪まちづくり振興会との意見交換会でお聞きしたご意見を踏まえて、資料No.1の地域活性化の方向性の地域協議会(案)から修正があるかご協議いただきたい。また、その協議がまとまる場合は、地域活性化の方向性の決定についてご協議いただきたい。

【白木会長】

北諏訪まちづくり振興会との意見交換会でお聞きした意見を踏まえ、地域活性化の方向性(案)に修正があるか、意見を求める。

(意見なし)

前回の会議は、私は欠席させていただいたが、まちづくり振興会と意見交換をしたので、修正案がないということで、資料No.1の案を地域活性化の方向性とするかどうか。

(委員同意)

【白木会長】

では、地域活性化の方向性が決定したということで、今後について事務局へ説明を求める。

【小川係長】

決定した地域活性化の方向性は、地域政策課へ報告し、市のホームページで公表する。また、今後発行する地域協議会だよりで、地域の皆様へもお知らせする。今後は地域活性化の方向性の実現に向けて、対応を検討していただきたい。

【大舘委員】

この方向性については、今私は賛成である。まちづくり振興会との意見交換の後に考えたことだが、意見交換では議論が大きく二つに分かれたと私は考えている。私たち地域協議会が検討していくことは、地域活性化ということと、地域の魅力をこれから見いだすということ、これは私も理解していた。それにプラスアルファで、市が人口増加や何かを考えているのかどうかということである。前回のまちづくり振興会との意見交換で、そのプラスアルファを考えている人の意見や、事務局から10年後20年後の北諏訪を考えるとという話が出たと思う。これは私個人の考えだが、もしそのプラスアルファの部分の考えをしたら、住民が2か月に一度集まって会議をしたところで変わらないと思う。やはり、上越市全体の人口が増えなければ、この地区は増える見通しもないの

ではないか。議会だよりの夏号にもいろいろと書いてあったが、市がきちんと地区に提案するプランでなければ10年後20年後を考えることは非常に厳しいし、何を狙っているのかがわからない。もう一つは、私たちも地域協議会に出ているが、方向性と魅力の発信だけであれば、多分地域の人ができると思うが、二、三年の見通しではないかと思っている。この二、三年の見通しであれば、振興会の人たちがいろいろと活動して、それが10年後まで続くかもしれない。魅力の発信だけだったらできる。住民が集まって2か月に一度会議をして、何かをしていくことはできると思う。そこで考えたことは、前回もくすみ家族園で何か行事をと言ったら、昔はカラオケ大会をやっていたという話があった。つまり、もう30年も前からいろいろな活動をずっとされてきている。私の親の世代や、おじいちゃんの世代からいろいろな活動をずっとやられてきた上で、やはり人口が減少しているので、多分いろいろな活動が少しずつなくなっているということである。我々が今目指しているものは、それでも何もしないよりしたほうがいいと思っている。その減少を食い止めるのか、それとも今やっている魅力を維持しながら地域で取り組んでいくのか。このままだと多分減少していくと思う。さっきのプラスアルファの部分を求めるならば、まちづくりセンターは地域のことだと思うが、市のまちづくり政策に関する上層部の人たちが、しっかりと地区に人口減少などいろいろと提案してくる必要があると思う。具体的に言えば、クリーンセンターがあるので、北諏訪を環境都市にする、環境都市にする代わりに何かウィンウィンの関係を結ぶ、などである。しかし、一住民が何か提案しても、ただそのときに提案しただけで終わってしまう。意見交換会では、いろいろとその先の話も出ていたが、そこまで見えなかった部分があったと思う。私は、今年はこの案でいいと思うが、市は何を地域協議会や地域に求めているのかということをもう一度考えたり、今年で任期が終わるので、来年度以降どうしたいのか、地域協議会に何を求めるのかをもう少しはっきりさせたほうが、この前の議論のように大きい話題にならないのではないかと。前は、せっかく集まったのに、意見が二分したような感じを受けた。

【白木会長】

大館委員の意見について、事務局から何かあればお伺いしたい。

【佐藤所長】

北諏訪まちづくり振興会との意見交換会では、いろいろな方からご意見をいただいた。今大館委員から市のほうからも提案してほしいというお話もあった。前回の意見交換会

でもお話をさせていただいて話題にも出たが、市とすると第7次総合計画、市長が考える市の方向に向かって進んで、それは市全体が平たくそれでいきましょうという形でお示しをしているところである。では、地域協議会に何を求めるかということ、市全体ではなく、この北諏訪区に限って活性化に向け、何が問題なのか、何ができるのかということに視点を置いて、地域として課題を洗い出して、解決策を検討して、10年、20年先の北諏訪の地域がどうあっていきたいのかということを研究していただきたいとお願いしている。今回地域活性化の方向性が決定したが、今後構成要素に従って、いろいろなお話がここから先へ進んでいくと思う。この構成要素については、市全体の構成要素ではなく北諏訪の構成要素なので、ここからまた課題があれば抽出していただき、検討して次の委員に引き継いでいただきたいと考えている。

【白木会長】

簡単に言うと、意欲を持たせるためには何が必要なのか。それから、当然若い方たちの考えが必須条件であり、意欲を持たせるためにはどうしたらいいかということのアクションを起こしたほうがいいと思う。なぜかということ、今この公民館でもいろいろなサークルがあって、いろいろと地域の活性化のために活動されている方がおられる。室岡委員もそのグループに入っておられる。しかしなかなか人の集まりがない。PRが足りないのか、住民の皆さんの意欲がないのか、そこのところも聞かなければいけない。なので、我々地域協議会の委員だけではなくて、地域の人たちの意見というものを集約しながら前に進んでいかないと駄目だと思う。現実、少子化や高齢化は防ぎようがない。今は子供をみんな学校へあげるから、共稼ぎをしないとなかなか子供の教育もできないのが現実である。そこのところが非常に難しい。人の流れというのは難しいところがある。室岡委員、いかがか。

【室橋委員】

今は活動を休んでいるが、なかなか人が集まりにくかった。個人的に声をかけて来ていただいていた。

【白木会長】

意欲の問題だと思う。

【大館委員】

前回の意見交換でそのような意見が出た。13区の話も出た。だから少し疑問を持った。地域の中でできることをやるという目的はわかる。でもそれは10年後20年後の

プランなのかと私は思った。議員は4年がスパンなので二、三年後、それが繋がっていくようなイメージである。

【白木会長】

合併前の13町村の状況は違う。そこは理解してほしい。意見はいただいているがなかなか難しい問題である。活性化といっても何が活性化かというところも難しい。

【大館委員】

個人的な意見を言えば、やはり大変だと思う。逆に言えば毎年490万円配分されていたほうが、仕事がしやすい。白木会長が前回言われたように、使い方や、きちんと計画を立てなければいけないが、前のほうが勝手はやりやすいと思う。だから、そういう意見を出していくのも一つだし、活動が非常に制限される。いろいろな個人的な活動が、北諏訪独自でやってきたことが制限されている現実も考えていくと、なかなか。そういう面も含めて、白木会長が去年おっしゃられたとおり、予算が区切られたから個人的な活動が削られていっている。だから理想と現実は違うのかという感じもする。

【白木会長】

いろいろな意見があって、活性化になればいいということである。非常に難しい問題である。トップダウンで行政からきちんと周知していただければ一番楽だが、地域のことは地域で考えろという命題なので、それはもう仕方がない。私の町内と隣の町内は、老人会がもうない。だから、年を取ってこられた方が、そういうところでの繋がりがほとんどない。どこかで切れてしまっている。

今年は、10月14日にまつりっちが開催される。また、11月3日には北諏訪小学校の150周年事業がある。そのときに、北諏訪小学校の出身ということで、水泳の石浦選手が参加してくださる。10月28日まで大会があって大変忙しいなか、150周年事業には参加してくださるということである。そういうイベントをとおして、北諏訪地区の皆さんが、いろいろなことで意欲を示していただければ一番いいが、令和2年度来3年間コロナがあり、集まっているいろいろなイベントをやるということから遠ざかっていた。今年からある程度の活動は地域でできるので、それを踏まえて何か、地域協議会でできることの範囲はあると思うが、先ほど言ったように行政のほうからトップダウンで、北諏訪地域にとってはこういうものがいいのではないかという部分もご指導いただきたい。大館委員の意見も踏まえてご検討いただければと思う。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

次回の協議会は、11月上旬以降の開催を考えている。日程については、会長と相談して、調整させていただき、決まり次第、開催案内をさせていただく。

【白木会長】

- ・会議の終了を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。